



ご存じですか？

地域を水害から守る水閘門等水位観測員の仕事を

米代川流域では8月3日、10日、12日と立て続けに3度の大雨に見舞われ、浸水や土砂崩れなど、各地で甚大な被害を受けました。

私たちは、昔から川からの色々な恵みを受けて生活してきましたが、人に恵みを与える川も、ときには洪水を引き起こして大切な家や財産、そして命までも奪ってしまうこともあるのです。米代川は、今でもひとたび大雨が降ると、たちまち川の水の高さが上昇するので、雨の多い時期（4月～9月）はいつも以上に注意が必要です。

川の増水による被害を出さないために、堤防を造ったり、河道掘削をして川幅を広げるなどの河川工事を行っています。それだけではなく、各樋門樋管の管理をしてくださっている水閘門等水位観測員の方々の活躍のおかげで被害を少なく済ませることができています。

水門等の役割



1 平常時や川の水位が低いときは、排水樋門の扉は開いており、生活排水や雨水を川に流しています。



2 洪水により川の水位が高くなると、川の水が樋門を通して住宅側に流れ込み（逆流）、浸水被害が発生するため、樋門の扉を閉めます。



3 樋門の扉を閉めると、住宅側の水の行き場がなくなり、住宅地が浸水する（内水被害）場合があります。そのため、内水被害が発生する場所には排水機場を設置したり、排水ポンプ車で排水するなどの対策を講じています。



4 川の水位が低くなり、住宅側への逆流の心配がなくなったら、樋門の扉を開け、住宅側に貯まった水を川に流します。

水閘門等水位観測員の仕事について

小猿部川第1排水樋管



地域を洪水から守るため、水閘門等水位観測員（以下、「観測員」）を地元の方に委託しています。観測員は、川の水位が上昇して川の水が水門や樋門・樋管等（以下、「水門等」）から宅地側に流れ込まないように門扉の操作を行います。川の水位が低くなって、川から宅地側への流れ込みの心配が無くなるまで現地にとどまり、観測や操作を行っています。

観測員の業務は昼夜を問わず、長時間にわたって行われる大変な仕事であり、地域の人たちの安全と財産は、観測員によって守られています。

現在、鷹巣出張所管内（北秋田市今泉地区～大館市扇田地区）では、樋門・樋管が25カ所あり、46名の観測員の方々がおります。（令和4年8月現在）

内水排除作業



▲内水が溜まってきている側に水中ポンプを入れ、汲み上げます。

豪雨に伴う米代川増水への対応として、水門等の門扉の全閉操作を実施しています。当出張所管内の前山川水門及び鷹巣第二排水樋管においては、排水ポンプ車などを設置・稼働し、周辺で発生した内水の排除作業を行って住宅地などへの浸水防止に努めました。



◀排水ポンプ車は25mプール（約300㎡）分の水を約10分で排水できます！

編集後記



自然災害はコントロールできません。観測員の皆さまは地域の安全のため悪天候の中、昼夜構わず出動し、冷暖房もないところで黙々と業務に当たってください。私たちの安心できる生活の影で、尽力くださっている観測員の皆さまの努力があることを少しでも多くの方に知ってほしく思います。（は）

